

日本橋の街の資産を新たな目線でアップデート 『NIHONBASHI MEGURU FES』 9月27日(金)～11月20日(水)開催

NIHONBASHI MEGURU FES メインコンテンツ 「めぐるのれん展」

- ✓ 約30の新旧様々な街の企業・飲食店がそれぞれのアイデンティティを暖簾制作で表現
- ✓ 6月5日(水)には暖簾制作デザイナーが集結するプレイベントも開催

名橋「日本橋」保存会、一般社団法人日本橋室町エリアマネジメント、日本橋文化交流フェスティバル実行委員会は、日本橋の魅力ある資産をアップデートし新しい形で発信していくイベント『NIHONBASHI MEGURU FES』を9月27日(金)から11月20日(水)の期間に開催します。

日本橋は、江戸時代より五街道の起点として、あらゆるヒト・モノ・コトが行き交い栄えてきた街です。そして現在も老舗企業・店舗やスタートアップ・クリエイティブカンパニー等、多種多様なプレイヤーが街に加わることで新たなものを生み出し続けている街でもあります。9月27日には、大規模複合型商業施設 COREDO 室町テラスが開業し、さらに日本橋に新たに人が訪れ、多くの交流が生まれる街へと進化を遂げます。

『NIHONBASHI MEGURU FES』は、こうした様々なプレイヤーによる新しい出会いのきっかけとなり、今までにない新しい価値を未来へ向けて生み出していくイベントです。当資料では先行していくつかのイベントコンテンツをご紹介します。

《本レターのポイント》

日本橋の地域資産をアップデート 『NIHONBASHI MEGURU FES』

『NIHONBASHI MEGURU FES』では、日本橋の魅力ある資産をアップデートすることを目的に、“デザイン・エンターテインメント・フード”を軸として多数のイベントを開催します。“デザイン”テーマにおいては日本橋の街中に様々な暖簾を掲げる①『めぐるのれん展』や、暖簾を舞台に紋とテクノロジーを掛け合わせた②体験型インスタレーションアート、“エンターテインメント”テーマでは③連携イベント『モントルー・ジャズ・フェスティバル・ジャパン』など様々なイベントを期間中展開いたします。



『NIHONBASHI MEGURU FES』
メインビジュアル
※庶代勝覧(部分) ベルリン国立アジア美術館
Photo AMF / DNPpartcom / © bpk / Museum für
Asiatische Kunst, SMB / Jürgen Liepe

新しい発想でデザインした暖簾を街中に掲出 『めぐるのれん展』

『めぐるのれん展』では、日本橋の風景を構成する暖簾をキャンバスとして、「街を表現する暖簾」と「企業を表現する暖簾」の制作・展示を行います。「街を表現する暖簾」では、「日本橋の新しいシンボルとなる“のれん”」をテーマに、美術家野老朝雄氏・アートディレクター矢後直則氏などの著名クリエイターや公募により選出された若手デザイナーが暖簾を制作します。一方「企業を表現する暖簾」では、約30社の新旧様々な日本橋の企業が、各々のアイデンティティを表現したオリジナルデザインの暖簾制作にチャレンジします。

『めぐるのれん展』 制作者・参加地元企業向けプレイベント開催

6月5日(水)にプレイベントを開催します。「企業を表現する暖簾」制作に参加する企業担当者とデザイナーおよび、「街を表現する暖簾」制作コンペに参加を検討している若手デザイナーへのオリエンテーションとしてトークセッションを行います。紋や暖簾特有のデザインや表現の仕方について理解を深めるイベントです。当日は「街を表現する暖簾」公募の審査員を務めるクリエイターも講師として登壇します。

登壇予定講師



波戸場承龍・波戸場耀次



戸田宏一郎



矢後直規



中村新



朴正義

■ 『NIHONBASHI MEGURU FES』 開催概要

開催期間：9月27日(金)～11月20日(水)

開催場所：日本橋各エリア

主催：名橋「日本橋」保存会、(一社)日本橋室町エリアマネジメント、
日本橋文化交流フェスティバル実行委員会

後援：東京都、中央区、中央区観光協会(予定)

内容：江戸・東京の中心地として栄え、江戸時代からの歴史・文化・伝統を引き継いできた日本橋の街で、
魅力ある地域資産をアップデートしそれを新たな切り口で発信します。

[主な開催イベント(抜粋)]

※以下紹介するのはイベントの一部です。

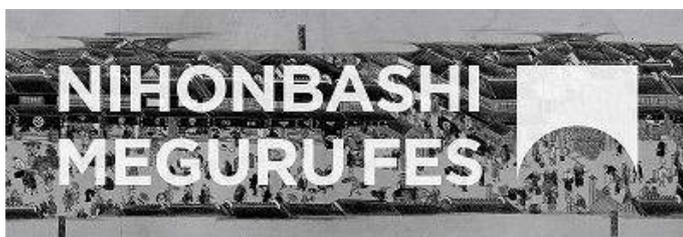
7月下旬に改めて詳細のリリースを配信させていただきます。

① めぐるのれん展

② 体験型インスタレーション(タイトル未定)

③ (連携イベント) モントルー・ジャズ・フェスティバル・ジャパン 2019

※開催イベント詳細につきましては以下詳細をご確認ください。



『NIHONBASHI MEGURU FES』メインビジュアル
熙代勝覧(部分)
ベルリン国立アジア美術館
Photo AMF / DNPartcom / © bpk / Museum für Asiatische
Kunst, SMB / Jürgen Liepe

『NIHONBASHI MEGURU FES』 開催イベント詳細

① 日本橋の街並みを象徴する暖簾をアップデート 『めぐるのれん展』

商業や文化の中心として栄え歴史を受け継ぐ街である日本橋では、老舗企業・老舗店舗が代々暖簾を守りながら生業を続けています。暖簾は現在日本橋の街並みや景観を形成する重要な要素のひとつとなっています。『めぐるのれん展』では、日本橋を代表する様々な企業や店舗と多彩なクリエイターが、「街を表現する暖簾」「企業を表現する暖簾」の2つのテーマで暖簾を制作。約1ヶ月間街中に展示し、江戸時代の日本橋を描いた絵巻「熙代勝覧(きだいしょうらん)」を表現するかのような彩りで日本橋の街へ人々を迎え入れます。

開催期間：9月27日(金)～11月4日(月・祝) (予定)

開催エリア：日本橋各エリア

共催：nihonbashi β project

展開内容：

街を表現する暖簾

「日本橋の新たなシンボルとなる暖簾」をテーマにした暖簾を、美術家野老朝雄氏やアートディレクター矢後直規氏を含む著名クリエイターと、事前に公募・選出された若手デザイナーが制作します。多彩なクリエイターが暖簾制作に係る様々な職人とのコラボレーションを経て、1枚の暖簾を創作します。

制作者：①著名クリエイター(野老朝雄氏、矢後直規氏、他)

②事前公募より選出された35歳以下の若手デザイナー

※公募用ページはこちら：<https://nihonbashi-beta.jp/>



野老朝雄氏
美術家



矢後直規氏
株式会社 SIX 所属
参加ゲストクリエイター
(一部抜粋)

企業を表現する暖簾

江戸時代の日本橋の賑わいを描いた「熙代勝覧(きだいしょうらん)」には当時の様々な問屋や店が暖簾を掲げている様子が描かれています。そして日本橋には現在もなお様々な企業が拠点を構えています。日本橋で300年以上も続く株式会社になべんなどの歴史ある企業から、今年3月に竣工した「日本橋室町三井タワー」に入居したTRI-AD(トヨタ・リサーチ・インスティテュート・アドバンスド・デベロップメント株式会社)、日本橋で新たに宇宙開発事業を展開する株式会社アクセルスペースなど、そのプレイヤーの種類は多岐に渡り、年々幅広くなってきています。こうした日本橋に拠点を構える企業約30社がそれぞれのアイデンティティを表現する各社オリジナルの「のれん」を制作、掲出します。

制作者：日本橋に拠点を置く各企業 約30社



参加企業(一部抜粋)

✓ 6月5日(水)19:00～『めぐるのれん展』プレイベント

『めぐるのれん展』を開催するにあたり6月5日(水)にプレイベントを開催します。プレイベントでは、デザインコンペに応募検討する若手デザイナーや、参加企業の担当者・デザイナーを対象に、のれんに対する理解を深めるオリエンテーションやトークセッションを実施いたします。

開催日時：6月5日(水)19:00～21:30

19:00～ イベントのコンセプト、企画趣旨について説明、
講師陣によるトークセッション(めぐるのれん展に向けて)

20:20～ 参加企業・参加デザイナーに向けオリエンテーション&懇親会

開催場所：日本橋室町三井タワー3階 室町三井ホール

主催：nihonbashi β project

登壇講師：



波戸場承龍・波戸場羅次



戸田宏一郎



矢後直規



中村新



朴正義

日本に古くから伝わる「家紋」を着物に手で描く職人「紋章上絵師」として、親子代々その技術を受け継いでいる。古来の紋章上絵師の描き方やデザイン手法を用い、日本人の持つ繊細な表現技法と大胆な構図、引き算の美学を追求している。様々な業種の作り手やブランドとのコラボレーション、アート作品を通して、家紋を現代のライフスタイルと調和するデザインへと昇華させている。

1970年佐渡島生まれ。株式会社CC代表取締役/クリエイティブディレクター/アートディレクター/コミュニケーションの最終アウトプットをイメージしたブランド開発から、広告などシンブル&ポールドなアートディレクション中心にした考え方で幅広い仕事を手掛ける。

1986年、静岡県生まれ。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。2013年より株式会社SIXに所属。LAFORET HARAJUKU、NHKドラマ「精霊の守り人」のビジュアルや、Chara、RADWIMPS、菅田将暉などのCDジャケットやミュージックビデオなどを担当。

1986年東京生まれ。暖簾ディレクター。2013年休眠状態であった家業の有限会社中むらを再稼働し、暖簾の企画・デザイン・製作事業を立上げる。暖簾のディレクションを通じて日本各地の手工業や工芸技術の販路設計に取組み、新たな価値づくりに挑戦している。

1967年東京生まれ。2000年にバスケットを設立。数多くの企業やブランドの新しい体験づくりの企画ディレクションを担当し、カンヌライオンズ、D&AD、ニューヨークADC賞、文化庁メディア芸術祭など受賞歴多数。

✓ 『めぐるのれん展』 連携施策：地元の飲食店が主体となり各店の「のれん」をアップデート

『めぐるのれん展』の開催期間中、街の景観や賑わい創出を目指す「室一本一にぎわいの会」に所属する「日本橋室町一丁目」「日本橋本町一丁目」エリア(以下ムロホンエリア)の各飲食店が、日本橋を拠点に活躍するクリエイターとともに、暖簾デザインのアップデートを図ります。

「ムロホンエリア」は日本橋の歴史ある老舗や路地等、風情ある街並みが残るエリアです。

『めぐるのれん展』の期間中、店舗暖簾をリデザインし、来街者が街を巡る機会を創出します。

掲出場所：各店舗店頭

協力デザイナー：



やまねりょうこ氏/イラストレーター

1991年生まれ。桑沢デザイン研究所卒業。2012年より、写真とデザインの会社「ゆかい」に所属。主な仕事に書籍、雑誌、webでのイラストレーション、ポスターデザイン、展覧会カタログや写真集のブックデザイン、パッケージデザインにグッズ制作など幅広く活動を行なっている。2018年、自身初となる個展「山と根」を開催。



齊藤美紗子氏/丸久商店 (まるきゅうしょうてん) 五代目

日本橋堀留町の注染問屋・丸久商店の五代目夫婦の婦の方。大学時代に学んだ日本画の経験を活かしつつ手拭いや浴衣、暖簾に半纏、日々様々なお客様のオーダーに応えている。最近是新米ママとして子育て奮闘中。

代表参加店店主：



佐久間一郎氏/ 繁乃鯨三代目

歴史ある江戸前鯨の名店「繁乃鯨」三代目であり、日本橋料理飲食業組合の青年会「三四四(みよし)会」では会長も務めた。

街全体の魅力を知ってほしい

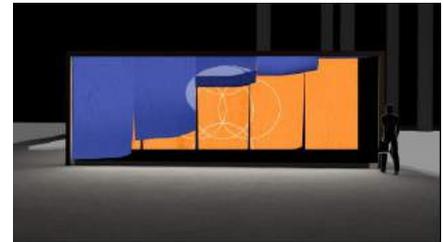
今日本橋では、街全体の魅力を高めることに注力しています。一店舗だけ良くしてもだめで、エリア全体の良さが伝わらなければ人は離れていくからです。今回の暖簾もそうした取り組みのひとつとして、日本橋の街全体の魅力を高めるきっかけにしたいです。

② 『体験型インスタレーションアート(タイトル未定)』

波戸場親子がこれまで制作した「紋」のデザインや、新たに制作する日本橋の麒麟像の「紋」等を活用したインスタレーションアートを展示。プロジェクションによる紋のアニメーション投影や、体験ブースに入った参加者一人ずつに異なる紋を生成する、体験型インスタレーションを展開します。

開催期間：10月15日(火)～10月20日(日) (予定)

会場：COREDO 室町テラス 1階大屋根広場



のれんインスタレーションイメージ

③ 【連携イベント】『モントルー・ジャズ・フェスティバル・ジャパン 2019』

「モントルー・ジャズ・フェスティバル・ジャパン」は、50年の歴史を誇るスイスのモントルー・ジャズ・フェスティバルと連携しながら、日本独自企画として2015年から東京・恵比寿で開催。以来、上質で刺激的な都市型の音楽フェスとして回を重ね(2018年は休催)、これまでに国内外およそ100組のミュージシャンが出演してきました。2019年は、東京都中央区の本日本橋三井ホールを舞台に、国内外のトップ・ミュージシャンによる白熱のステージが繰り広げられます。

開催期間：10月12日(土)～14日(月・祝)

会場：東京・日本橋三井ホール、他



モントルー・ジャズ・フェスティバル・ジャパン 2019
メインビジュアル

参考情報

「COREDO 室町テラス」開業と日本橋再生計画のこれまで

三井不動産は、2019年3月28日(木)に「日本橋室町三井タワー」を竣工しました。また、商業施設「COREDO 室町テラス」を2019年9月27日(金)にグランドオープンします。この度竣工した「日本橋室町三井タワー」は「日本橋再生計画第2ステージ」の旗艦プロジェクトとなる大規模複合ビルであり、日本橋再生計画をさらに加速し、日本橋エリアのグローバル化に寄与するプロジェクトです。

○日本橋再生計画とは

三井不動産は、五街道の起点として商業・文化の中心として栄えた日本橋にかつての賑わいを取り戻そうと、官・民・地域一体となって「残しながら、蘇らせながら、創っていく」をコンセプトに「日本橋再生計画」を推進しています。2004年、「COREDO 日本橋」の開業を皮切りにスタートした「日本橋再生計画」は、「日本橋三井タワー」の竣工、「COREDO 室町1」の開業を経て、「COREDO 室町2・3」の開業を契機に「日本橋再生計画第2ステージ」へ進化しました。これまでのコンセプトをベースに「産業創造」「界限創生」「地域共生」「水都再生」の4つのキーワードを掲げ、ハードとソフトの融合による街づくりを目指し、今も第2ステージが進行しています。

2019年3月に竣工した「日本橋室町三井タワー」は、中央通り、江戸通りの角に位置し、日本橋エリアの核を北へ広げ、神田・東京駅周辺エリアと日本橋をつなぐ日本橋エリアの新たな拠点にもなります。



日本橋室町三井タワー

「室一本一にぎわいの会」について

COREDO 室町などの再開発が進み、街が大きく変化を遂げている中で、周辺と連携・共存しつつ、日本橋らしい魅力を継承・発展させていくために、2017年1月に兄弟町会である室町一丁目会、本町一丁目町会の地元有志が街の将来を考え立ち上げたのが「室一本一にぎわいの会」です。2018年4月からは三井不動産株式会社と共に、歴史ある老舗や路地等風情ある街並みを残し創りながら、個性的な店舗を誘致し、賑わいづくりと景観美化を推進するプロジェクトとして「日本橋ムロホン賑わいづくりプロジェクト」を本格始動するなど、日本橋の街歩きの楽しさを創り出し、日本橋エリアの総合的な価値向上を図る活動を進めています。



賑わいと景観づくりを中心に、まちの将来像をまとめたリーフレット「室一本一の願い」を作成